

平成 29 年度 尼崎市地域保健問題審議会 計画策定部会議事録要旨

1 日 時 平成 29 年 10 月 27 日（金）午後 1 時 30 分～2 時 30 分

2 場 所 尼崎市保健所 精神保健相談室

3 出席者

（委 員）黒田部会長、松田委員、磯田委員、稲垣委員、北野委員、高谷委員
（委員 6 人）

（事務局）檜垣保健部長、松長保健企画課長、森田健康増進課長、針谷疾病対策課長、吉田事業推進担当課長、石井保健センター所長、竹内公害健康補償課長、小島ヘルスアップ戦略担当課長、中保健企画課係長、藤井主事
（事務局 10 人）

4 欠席者

（委 員）（0 人）

5 議事録

○ 開会あいさつ

委員の出席状況、傍聴者の状況（なし）報告

○ 黒田部会長あいさつ

○ 議題

（1）次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定について 第Ⅰ部総論
資料 1、第Ⅰ部総論に基づき、事務局より説明。

発言者	発言内容
委員	言葉の用い方の問題だが、「市民が、地域で健康に、安心して暮らすこと」とあるが、「健康で、安心して地域に暮らすこと」のほうが良いのではないか。
部会長	そのほうが言葉として自然ということである。

（2）次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定について 第Ⅱ部第 1 章
資料 第Ⅰ部 1 章に基づき、事務局より説明。

発言者	発言内容
部会長	1 章との結びつきは。
事務局	このいきいき健康プランと同じスタイルで挿し込む作業をしているところで、間に合わず申し訳ない。11 月 10 日の総会までにはきちんと挿し込み、皆さまのお手元にお届けする予定で作業している。

(3) 次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定について 第Ⅱ部第2章
資料 第2章に基づき、事務局より説明。

○質疑応答 特になし

(4) 次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定について 第Ⅱ部第3章
資料 第3章に基づき、事務局より説明。

○質疑応答 特になし

(5) 次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定について 第Ⅱ部第4章
資料 第4章に基づき、事務局より説明。

○質疑応答 特になし

(6) 次期「地域いきいき健康プランあまがさき」の策定について 第Ⅱ部第5章
資料 第5章に基づき、事務局より説明。

発言者	発言内容
部会長	「保健・医療・介護・福祉等の連携」の中で、地域包括支援センターは市の取り組みの中には入らないのか。
事務局	高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で主軸となって整備されている部分となる。リンクはしていくが、各論の第4章のうち「医療介護連携の推進（入退院調整の取組）」の中で【取組の方向性】の一取組としている。いきいき健康プランの中では、医療に関連するところを主軸に書いている。地域包括支援センターを主軸にしたものは、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画で整理をする、という棲み分けをしている。
委員	「400以上の給食施設で毎日約8万食の給食が食べられています」とあるが、これは学校給食の施設も含めているのか。
事務局	そうである。100食以上の給食を出している施設全てを指している。
部会長	今度の11月の審議会で最終的なできあがりとなるのか。
事務局	できあがりのイメージに近づいたものをお示ししたい。デザイン構成等はその後になるが、内容としては11月10日にほぼ最終のものをお示ししたいと思っている。
事務局	一つだけお断りしておきたい。今日見ていただいたものは、全部で約250ページになる。前回の計画よりも多くなってしまう。特に今回のいきいきプランの中核をなす計画でもあるが、ご存知の通り尼崎市ではヘルスアップ戦略として、保健部局だけでなく教育委員会、子ども関連部局、福祉等、全庁横断的に健康寿命の延伸や医療費の適正化を掲げながら進めている。福祉部でも具体的な事業がたくさんある。当初はできれば150ページくらいに収めたいと考えていた。体裁を整えるとこのままの内容でも多少のボリュームは減ると思うが、この先ボリュームの調整のため圧縮をかけていくことが必要になってくるか

	もしれない。その時にはご相談したい。
委員	実際にこんなにたくさん計画として立てられて、事業として行う時に大変である。
事務局	あまりにもボリュームがありすぎて、市民の皆さんも見づらいものになる。そのあたりも配慮しながら、最終版を仕上げていきたい。
委員	特にこの中で、緊急度の強弱をつけていく考え方はあるのか。
事務局	それぞれの緊急度の強弱はつけ難いと思っている。
委員	全部必要な事業だろうが、できるのかなという思いがある。
委員	こういう計画というものは基本的に作っておかないと事業に繋がらない。こういうものを作っておきながら、実際は事業を全然しないということも結構ある。計画があった上で事業が行われている、ということが最近理解できるようになった。本会議は保健問題審議会だが、福祉や教育の内容も入ってきている。総合計画の中に含まれているのか、そのあたりが気になっている。恐らく違う審議会もあると思うが、それらとの関連や調整はどうなっているのか。
事務局	市の上位計画は総合計画で、このいきいき健康プランはその部門別計画ということになる。総合計画は10年スパンだが、後期の総合計画が5年期間となり来年度からの施行になる。本日お示しした健康増進計画（ヘルスアップ尼崎戦略）と、従来から保健所が行っていたいきいき健康プランを、「健康寿命の延伸」という一つの目標の元にまとまる形で再編成された。市の上位計画とも整合性を取った上での部門別計画という位置付けになる。ただ、保健・福祉・介護等の内容が切れなくなっているので、オーバーラップのような形にはなりつつある。市民にとって分かりやすいものになるよう、各計画の棲み分けを考慮しながら、再編していく必要があると考えている。
事務局	どうしても重なってしまうが、健康増進計画の背景でお示ししているような内容は、これまでそれぞれの部局で縦割りにやっていた事業を、全庁横断的に見直し、「健康寿命の延伸」という目標でみた場合、各計画がどのように相互に効いてきているのかを検討しているものになる。尼崎市としては新しい取り組みになる。ここに書かれてあることは、他の計画にも個別事業としては当然入っている。
委員	だからこそ、ボリュームが増えることになると思う。
事務局	そういうことである。
事務局	各計画の関連性については、総論の中で示している。総合計画を上位計画とし、「第3次いきいき健康プラン」に関連する計画としては市内で8つある。その中の主だった6つの計画のどの章どの部門といきいき健康プランが紐づいているのか、その繋がりが分かるように、見出しだけをピックアップする形で整理している。それと、これら関連計画を所管するそれぞれの課と庁内推進会議で情報共有を図りながら意見交換をしながら進めている。
部会長	やはり最終的に市民が理解できて活用してもらえるようなものにして欲し

	い。
委員	例えば子どもの食育の話では、現実問題としてハード面で小学校の給食センター方式のことでもめている。そこが整備されていないのに食育と言っても繋がらない。進めていくべきものに集中して力を投資していかないと、財政もそんなに豊かにあるわけではない。これをやっていく、という部分を市民目線で分かるようにしてもらえると参画しやすい。ハードも含めて検討して欲しい。

以上